

～ FASTシリーズの機能の違いについて ～

FAST-Multi を含むFASTシリーズについては、基本タイプのほか、通信対応バージョンのFAST-NETと通報機能対応バージョンのFAST-Reportがございます。

ここで、FAST-NETならびにFAST-Reportの機能概要と利用用途、および基本タイプとの機能の違いについて簡単にご説明いたします。

FAST-NET (通信対応バージョン)

基本タイプのFASTシリーズに遠隔測定や測定データの遠隔回収を目的とした通信機能を追加した製品で、各種通信アダプタとの組み合わせにより、LAN / WANを問わずソケット通信やメールによる測定データの遠隔回収が可能です。

観測地点が遠隔地にあるためにデータ回収を遠隔で行う必要がある場合や、測定データをできる限りリアルタイムで確認する必要がある場合などに有効な機能を装備しています。

FAST-Report (通報機能バージョン)

基本タイプのFASTシリーズに状態監視機能と通報機能を追加した製品で、データロガーとしての動作のほか、接点状態の変化や測定値の上下限值超過などを監視して、異常時に通報メールを送信します。

通信回線として携帯電話各社の無線パケット通信網を利用するため、ランニングコストを抑えた遠隔監視システムを構築可能な製品です。

【機能比較表】

項目	(基本タイプ)	FAST-NET	FAST-Report
データロガー機能			
CFカード回収機能			
測定データ出力機能 ¹			
メールデータ回収 ²			
状態監視機能 ³			
通報メール送信機能 ⁴			

印は装備している機能を表す

- 1...測定データをソケット通信によりサーバに送信したり、シリアルポートに出力する
- 2...内蔵メモリに記録したデータを添付ファイルにてメールでデータ回収できる
- 3...接点変化や測定値の上下限值超過などの異常を監視する
- 4...状態監視機能に付随し、異常時に設定されたメールアドレスに通報メールを送信する